

研究課題名	救急電話相談プロトコール利用データ等を用いた救急医療の改善を目的とした網羅的疫学研究
研究の意義・目的	緊急電話相談サービスおよび緊急度判定スマートフォンアプリの使用履歴を用いて、救急搬送には至らない患者の実態や、その妥当性などについて分析することを目的とします。 得られた成果を通じて、救急患者さまによりよい医療を提供できるよう、また、救急搬送に関する一般住民の皆さまへの情報発信、消防・救急医療行政の向上に役立てます。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日 ～ 2026年3月31日
研究対象者	2009年4月1日～2026年3月31日に、救急安心センターおおさかに架電され、プロトコールが使用された全ての市民の方々を対象とします。
試料・情報の利用方法	大阪市消防局が通常業務として記録している行政資料のデータを使用させていただきます。データの管理をしている大阪市から、氏名や住所といった個人情報が匿名化されたデータの提供を受け、研究に使用します。
研究に使わせていただく試料・情報等の項目	以下の診療情報について研究に使用致します。 開始日時、終了日時、経過時間(秒)、開始曜日、終了曜日、相談者の構成、対象者の年齢、対象者の性別、受付方法、通報場所、評価点(合計)、相談窓口への案内、対応者の内訳、出場有無、出場有無の理由、プロトコール番号、プロトコール連番、プロトコールの内訳1（大項目；発熱・痙攣・頭痛など、成人80項目、小児19項目）、プロトコールの内訳2（緊急度が高い場合の確認項目；各大項目別に規定、各々6-10項目程度）、プロトコールの内訳3（緊急度が中等度の場合の確認項目；各大項目別に規定、各々6-10項目程度）、プロトコールの内訳4（緊急度が低い場合の確認項目；各大項目別に規定、各々6-10項目程度）、プロトコールの評価点、転帰情報1、転帰情報2、転帰情報3
試料・情報の他機関への提供	当施設は本研究の分担機関です。大阪市消防局よりデータの提供を受けますが、当施設から他の機関への試料・情報の提供はありません。
この研究を行っている共同研究機関	大阪大学大学院医学系研究科 救急医学 大阪市立大学大学院医学系研究科 救急医学 大阪市消防局救急部救急課
試料・情報を管理する責任者	大阪大学大学院医学系研究科 救急医学 嶋津岳士
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 救急医学 (担当者氏名) 出口 亮 電話番号：(06) 6645-3987 メールアドレス：rdegu92@gmail.com